

# 最近のCLT建築物等の 動向について



# CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例

X-ino (シーノ)



所在地: 高知県吾川郡いの町  
用途: 共同住宅  
階数: 地上4階  
(木造(CLTパネル工法))

竣工年月: 2025年3月

CLT活用方法: 壁・床

CLTの使用量: 153m<sup>3</sup>

備考: 各部屋をモジュール化・大型パネルを使用し、低コスト化を実現。  
高知県産材を約70%使用し、  
県産材の利用拡大に貢献。

パッシブタウン第5街区



所在地: 富山県黒部市  
用途: 共同住宅  
階数: 地上7階  
(木造、RC造、S造)

竣工年月: 2025年3月

CLT活用方法: 床

CLTの使用量: 438.4m<sup>3</sup>

備考: 床にCLT+RC合成スラブを採用。  
※別紙(1)

第一生命京橋キノテラス



所在地: 東京都中央区  
用途: 事務所・店舗  
階数: 地上12階・地下2階  
(木質ハイブリッド構造)

竣工年月: 2025年7月

CLT活用方法: 壁・床

CLTの使用量: 396.84m<sup>3</sup>

備考: CLT耐震壁(鋼材ブレース内蔵型)により高靱性・高耐力の木質耐震要素を実現。  
※別紙(2)

# CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例

## 大成建設グループ次世代技術研究所建設工事 研究棟



所在地: 埼玉県幸手市

用途: 研究施設

階数: 地上4階

(木造・RC造の混構造)

竣工(予定)年月: 2025年10月

CLT活用方法: 床・階段・耐震間柱

CLTの使用(見込)量: 381.2m<sup>3</sup>

備考: CLTをフランジに使用した大スパン木質床ユニット、CLT積層階段、CLT耐震間柱を採用。

## 鍵利CLT BLDG. (カギリシーエルティアー ビルディング)



所在地: 埼玉県さいたま市

用途: 店舗

階数: 地上5階

(木質ハイブリッド構造

(鉄骨造+CLT耐震壁))

竣工(予定)年月: 2025年10月

CLT活用方法: 壁

CLTの使用(見込)量: 83m<sup>3</sup>

備考: CLTを耐震壁として利用することにより耐震性能を強化。  
また、現し(あらわし)にすることにより、外観の木質化を実現。



Little Parts. Big Difference. >>>>

## News Release

2025年3月12日

### パッシブタウン第5街区 竣工

YKK不動産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：志水宏朗）は、2023年9月に着工したパッシブタウン第5街区（富山県黒部市）の竣工式を本日、黒部市長 武隈 義一様、設計者 Hermann Kaufmann（ヘルマン・カウフマン）氏をはじめ工事関係者ご列席のもと執り行いました。

パッシブタウン<sup>※1</sup>は持続可能な社会にふさわしいローエネルギーの「まちづくり・住まいづくり」を提案する取り組みです。全5街区からなり、第1～第3の前期街区はパッシブデザインを採用し、黒部の風や地下水などの自然エネルギーを活かしたサステナブルな住空間を探索。後期街区（第4～第5街区）では前期街区で得た知見をもとに、地域産木材と再生可能エネルギーを活用した脱炭素に挑戦しています。

第5街区は、地域の森林資源を最大限活用した北陸初の木造中高層集合住宅とし、太陽光発電に加え、住宅3棟のうち1棟に集合住宅としては日本で初めて水素エネルギー供給システム Power to Gas (P2G)<sup>※2</sup> を実装。再生可能エネルギーをシーズンシフトさせることにより、カーボンニュートラルの実現とグリーンエネルギーによる自立したまちづくりをめざしています。



外観

内観

各種をつなぐ回廊

※写真ダウンロードURL [https://www.ykk.com/newsroom/g\\_news/2025/](https://www.ykk.com/newsroom/g_news/2025/)

【内観】天井の表しにCLT+RC合成床を使用

#### <ポイント>

- ① 地域森林資源の最大活用と伐採跡地への植林により建設時のカーボンニュートラル実現をめざす
  - ・富山県産木材を最大限に使用し、コンクリート部分にも出来る限り低炭素型の「ECM コンクリート<sup>®</sup>」<sup>※3</sup>を採用することで建設時のCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減。さらに完成した木造住宅を長く使いCO<sub>2</sub>を長期間固定することを加えると、建設時に排出されるCO<sub>2</sub>排出量は、同規模のRC造集合住宅に比べ<sup>※4</sup>、約半分<sup>※5</sup>となる見込み。
  - ・使用木材の87%を富山県内から調達し、2023年9月 富山県東部の伐採跡地にスギの苗木200本を植樹、草刈りなどの育林活動を継続的に実施しています。植樹した木が成長し、CO<sub>2</sub>を吸収することで建設時のカーボンニュートラル実現をめざしています。

#### ② パッシブデザインと再生可能エネルギーを活用し、住宅棟 運用時のCO<sub>2</sub>排出量を削減

・これまでの街区で収集した室内外環境の実測データをもとに、外壁・柱・梁などの部材で熱橋や内部結露が起こらない断面設計とし、本物件仕様のYKK AP トリプルガラス木製窓「APW 651」採用により、高気密・高断熱の室内環境を実現し、外皮平均熱貫流率<sup>※6</sup>Ua値0.23を達成。

#### ③ グリーンエネルギーによる自立型集合住宅の実現

・P2Gを備えた住宅棟においては、余剰電力をシーズンシフトすることでエネルギー自給率は95%になると予測。災害時は地域の防災拠点として活用できるよう整備を進めてまいります。

パッシブタウンの集大成となる第5街区では、自然採光、自然換気などパッシブデザイン採用による省エネと太陽光を活用した創エネ、P2Gの導入で可能となった季節を超えての蓄エネにより、資材調達から解体・廃棄に至るまでのライフサイクル全体で排出されるCO<sub>2</sub>排出量は、同規模のRC造集合住宅に比べ、約60%<sup>※5</sup> 減となる見込みです。

<YKK不動産株式会社代表取締役会長 吉田忠裕 コメント>

2019年から取り組んできた第5街区が、コロナ禍を経て竣工の日を迎えたことを大変感慨深く思います。これでパッシブタウン全街区が完成しましたが、建てて終わりではなく、第5街区についても室内環境やエネルギー消費量の実績データを収集し、有識者の方々に評価・検証していただきその結果を公表します。できるだけエネルギーを使わずに黒部という地域の特性を活かした快適な住まいを提案する。われわれがこの挑戦で得た知見や経験が、日本だけでなく世界にも広がり活用されていくことを願っています。

※1 パッシブタウン <https://www.passivetown.jp/>

※2 再生可能エネルギーの余剰電力を活用し、水の電気分解により水素を生成し、これを貯蔵し、利用する技術。

※3 参考URL <https://www.takenaka.co.jp/solution/environment/ecm/>

※4 J-CAT(Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle) 2023年度報告書に掲載されているRC造集合住宅算定事例との比較

※5 集合住宅脱炭素化評価技術研究会 算定による暫定値

清家剛氏（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授）を部会長とし、委員に堀祐治氏（富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授）、磯部孝行氏（武蔵野大学 工学部 サステナビリティ学科 准教授）が参画。建物のLCAと持続可能性を国際的な評価法で第三者的に評価し、その効果と課題を広く伝えることにより技術の進展に貢献することを目的とする。

※6 壁や窓など建物の外皮を介して熱がどのくらい逃げやすいかを示す数値（低いほど断熱性能が高い。）

【お問合せ先】 YKK株式会社 黒部事業所 黒部広報グループ 菅野(かんの)・勇(いさみ)

TEL: 0765-57-1565 E-mail: [k\\_ykk\\_kurobe@ykk.com](mailto:k_ykk_kurobe@ykk.com)

YKK AP株式会社 広報室 飯野、古賀

TEL: 03-3864-2321 E-mail: [k\\_ykkap@ykkap.co.jp](mailto:k_ykkap@ykkap.co.jp)



# CLTを構造材として活用した中高層建築物の事例 ※別紙(2)

## Well-being×Sustainability

『第一生命京橋キノテラス』は、日本橋・銀座をつなぐ中央通りと鍛冶橋通りの交差点に面する視認性の高い立地に住つ、東京メトロ銀座線「京橋」駅と直結する地上1・2階・地下2階のオフィスビルです。「Well-being×Sustainability」をコンセプトに、木造と鉄骨造の双方の強みを活かし、「木」を感じられる開放性の高いファサード、施設利用者の健康や生産性向上に効果のある快適な空間、及び耐火集成材や耐火木鋼梁による40m×17mの木質無柱空間を実現しています。



## Well-being

木質空間による施設利用者のウェルビーイングへの貢献

- ✓ 木に囲まれた快適な執務空間と、外気に触れられる環境づくり
- ✓ 立地特性を活かした基準階計画と、明るく開放的な共用部計画

### 木に囲まれた執務空間・明るく開放的な窓廻り

建物の内装に木材を用いることにより、心身面等の効果が得られることが明らかになってきています。建物の主要構造部の天井や梁に使用した木材を積極的に表し、施設利用者に対して、リラックス効果や生産性向上効果のある快適な執務空間を提供します。



### 立地特性を活かした計画

本計画地は中央通り側に低層部が配置された大型再開発に採られた立地特性を活かし、南北（銀座側・日本橋側）に視線の通る開放的な40m×17mの木質無柱空間を実現しました。



### コミュニケーションの活性化を促す仕掛け

本物件には施設利用者のQOL向上や健康増進を図りつつ、多様化するワークスタイルの適応やコミュニケーションの活性化を促す計画として、外気に触れられる木質テラスや、街に開かれた1・2階の屋外ビロティ空間等を設置しています。



## Sustainability

木造+鉄骨造のハイブリッド構造による持続可能な先進オフィス

- ✓ オフィスビルとして国内最大級となる木材使用量（約1,100m<sup>3</sup>）により、約740トンのCO<sub>2</sub>固定化を実現
- ✓ 木造ハイブリッド構造の採用及び電炉材の活用により、同規模の鉄骨造オフィスビルと比べ、建設時のCO<sub>2</sub>排出量を約37%削減

### 全国各地の木材を約1,100m<sup>3</sup>使用

使用した木材は、多摩産材をはじめとする国産材を活用し、木材使用量はオフィスビルとして国内最大級となる約1,100m<sup>3</sup>、CO<sub>2</sub>固定量は約740トンとなります。

産地

北海道 / 長野県 / 奈良県  
岡山県 / 高知県 / 熊本県  
東京都（多摩産材）

樹種

カラマツ / 杉

使用量

約1,100m<sup>3</sup>

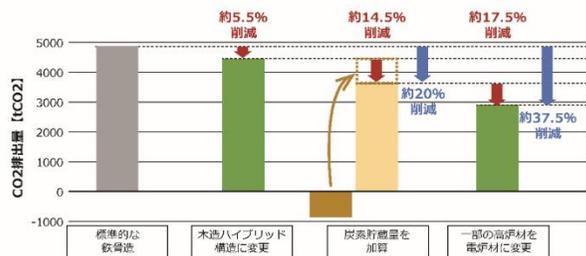
CO<sub>2</sub>固定量

約740トン



### 約37.5%のCO<sub>2</sub>削減効果

木材を建物に使用することにより、躯体部分において、一般的な同規模の鉄骨造オフィスビルと比べ、建設時のCO<sub>2</sub>排出量を約20%削減しました。加えて、本物件で使用した約70%の建物の躯体（鉄骨部材）にはリサイクル資源を有効活用した鋼材である電炉材を採用することにより、約17.5%のCO<sub>2</sub>を削減しており、トータルで約37.5%のCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。



# CLTをめぐる最近の動き（1）

2022年8月1日  
東京海上ホールディングス株式会社  
東京海上日動火災保険株式会社

## 新・本店ビルのデザインについて

～国産木材を使い木の使用量が世界最大規模となる高さ100mの「木の本店ビル」へ～

東京海上ホールディングス株式会社(取締役社長グループ CEO 小宮暁)および東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長瀬伸一)は、東京海上日動ビル本館および新館を一体で建て替えて建設する新・本店ビルのデザイン(基本設計)をまとめました。

新・本店ビルのエクステリアは、「丸の内」の街並みに調和し、日本の玄関口である東京駅と皇居を結ぶ行幸通りに面した場所に相応しい洗練された気品のある佇まいを表現しました。

デザイン上の重要な役割は木材が担っています。新・本店ビルは、構造部材である柱、床に国産木材をふんだんに使い、木の使用量が世界最大規模となる高さ100mの「木の本店ビル」として生まれ変わります。

木材は、成長の過程でCO<sub>2</sub>を吸収・貯蔵する機能を持つ、環境にやさしい優れた建築素材とされています。新・本店ビルは、国産木材を大量に使用することなどにより、一般的なビルに比べて建築時のCO<sub>2</sub>排出量を3割程度削減することに加え、高効率の設備や地域冷暖房の採用、使用電力に100%再生可能エネルギーを導入するなどの施策により、省エネルギーの推進、脱炭素社会の実現に貢献します(※)

また、戦後植林された多くの樹木は利用期を迎えていると言われており、大きな需要の創出が我が国の森林、林業の再生に不可欠とされています。東京海上グループは、新・本店ビルに最新技術の耐久国産木材を大量に用いることにより、それが我が国の林業の再生や地方における雇用の創出、ひいては地方創生、地域循環型経済の構築に寄与することを願っています。

東京海上グループは、1879年8月1日に「東京海上保険会社」が日本初の保険会社として誕生して以来、お客様や地域社会の“いざ”を支えながら持続的に成長してまいりました。新・本店ビルは、次の50年、100年に亘って、より一層進化するグループのグローバル経営の中心であり続けると共に、丸の内で初めて地上部分を全館免震とするなどの高い災害対応力や、国産木材の利用など、サステナブルな社会の実現に貢献するグループのパーパス(存在意義)を象徴する存在となることを目指します。

※:新・本店ビル計画は、2022年2月27日、国際的なグリーンビルディングの認証プログラムであるLEED®のv4における「LEED® for Building Design and Construction: New Construction」のカテゴリーで最高レベル「Platinum」の予備認証を取得しました。

## 1. デザインについて

### ① エクステリア ～立ち並ぶ力強い大木が人々に「安心」を与えるデザイン～

新・本店ビルでは、ビルを支える柱の多くに木材を使用すると共に、床の構造材としてCLT(直交集成板)を用いることなどにより、可能な限り多くの木材を使用する予定です。

立ち並ぶ木の柱は、幾年もの長い月日をかけて成長し、集う人々に「安心」をもたらす存在となった力強い大木をモチーフとしており、新・本店ビルのデザインの重要なエレメントとなっています。



木材がふんだんに使われた柱や床は、季節や時間の移り変わりによって繊細に表情を変えるガラスのファサードに包まれ、美しく印象的な「キューブ(立方体)」を形作っています。このキューブのデザインは、ビジネス・歴史・文化が共存する街「丸の内」の街並みとの調和や行幸通りに面した場所に相応しい気品や洗練された趣き、訪れる人の視点でのヒューマンスケールなど、様々な観点についてデザイナーと慎重に議論を重ねた結果、生み出されました。

### ② ランドスケープ ～静寂と憩いをもたらす屋上庭園～



# CLTをめぐる最近の動き（1）

新・本店ビルの屋上には、都心の喧騒にありながら、人々にひと時の静寂や憩いをもたらす緑豊かな庭園を計画しました。この庭園とエントランスの中央の「パティオ(中庭)」と呼ばれるスペースに植えられた樹木、さらにビルの周囲に配された樹木は、皇居外苑と新・本店ビルをシームレスに結びつけ、訪れる人が季節の移ろいや自然のぬくもりを感じられる空間を形作っていきます。

### ③ デザイナー

新・本店ビルのデザインは、1998年にプリツカー賞を受賞した世界的な建築家であるレンゾ・ピアノ氏が主宰する設計事務所、Renzo Piano Building Workshop (RPBW) が担当しました。東京海上グループの新・本店ビルは、世界中で多くのプロジェクトを手掛ける RPBW が日本においてデザインを担当する初めてのオフィスビルとなります。レンゾ・ピアノ氏は、東京海上グループのパーパスや、新・本店ビルが持つ意義に深く共感しており、今現在も、RPBW は株式会社三菱地所設計と協働しながら多くのチャレンジングな取組みを推進しています。

#### レンゾ・ピアノ(Renzo Piano)

1937年イタリア・ジェノヴァ生まれ。1964年ミラノ工科大学卒業。1981年 Renzo Piano Building Workshop 設立。ロンドンのザ・シャードやニューヨークのニューヨーク・タイムズビル、ホイットニー美術館など、世界中でこれまでに140以上のプロジェクトを手掛ける。日本においても関西国際空港ターミナルビルなどの実績がある。



### 2. スケジュール

- 2022年10月 東京海上日動ビル本館および新館解体着工
- 2024年12月 新・本店ビル建築着工
- 2028年度 新・本店ビル竣工

### 3. データ

所在及び地番	東京都千代田区丸の内1丁目6番1
敷地面積	10,147.61 m <sup>2</sup>
主要用途	事務所(本店ビル)、駐車場等
構造	S造/木造/SRC造
規模	地下3階、地上20階、塔屋2階
建物高さ	約100m
延床面積	約130,000 m <sup>2</sup>

設計	Renzo Piano Building Workshop、株式会社三菱地所設計
施工(予定)	株式会社竹中工務店、株式会社大林組、清水建設株式会社、鹿島建設株式会社、大成建設株式会社、戸田建設株式会社による共同企業体

東京海上グループは、これからもステークホルダーの皆様とともに、災害レジリエンスの向上、健やかで心豊かな生活の支援、気候変動対策の推進、D&Iの推進・浸透に繋がる取組みを通じて、SDGsの達成に貢献してまいります。



上記の記載内容は、いずれも本ニュースリリースを公表した時点のものであり、今後の検討によって変更する場合があります。

以上

## (仮称)東京海上ビルディング新築工事



所在地:東京都千代田区  
 用途:事務所・集会場・店舗・診療所  
 階数:地上20階・地下3階  
 (木造・RC造・S造)  
 竣工(予定)年月:2028年7月  
 CLT活用方法:床  
 CLTの使用(見込)量:1187m<sup>3</sup>  
 備考:床にCLT+RC合成スラブを採用。

# CLTをめぐる最近の動き（2）



三井不動産グループの  
**& EARTH**

2025年4月22日

報道関係者各位

三井不動産株式会社

自然資源を循環させ、未来につないでいく街づくりに貢献

## 三井不動産グループの木造建築ブランド「& forest」に名称決定

### 本リリースのポイント

1. 三井不動産グループの新たな木造建築ブランド名称を「& forest」に決定。
2. 日本橋で建設中の国内最大・最高層の木造賃貸オフィスの名称を「日本橋本町三井ビルディング & forest」、神奈川県海老名市にて建設中の複数テナント型物流用途を含む施設の名称を「MFIP 海老名 & forest」に決定。
3. 循環資源である木材の活用を通じたさらなる価値創造に向け、新たに三井不動産として2棟目となる木造賃貸オフィスビル「(仮称)日本橋本町一丁目5番街区計画」を日本橋にて推進。

三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:植田 俊、以下「三井不動産」)は、三井不動産グループの新たな木造建築ブランドの名称を「& forest」に決定いたしました。本ブランドの第一号物件となる木造賃貸オフィスビル「(仮称)日本橋本町一丁目3番計画」の名称を「日本橋本町三井ビルディング & forest」、神奈川県海老名市において2025年4月に着工し、国内で初めて木造構造を採用する複数テナント型物流用途を含む施設の名称を「MFIP 海老名 & forest」といたします。また、循環資源である木材の活用を通じたさらなる価値創造に挑戦するべく、東京・日本橋において、三井不動産として2棟目となる木造賃貸オフィスビル「(仮称)日本橋本町一丁目5番街区計画」を推進中です。

三井不動産グループは、2025年4月に街づくりにおける環境との共生宣言「&EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然、人、地域が一体となったものと捉え、持続可能であり魅力が増す街づくりを推進しています。今般定めた「& forest」には、三井不動産グループの「&マーク」における「共生・共存・共創」の理念のもと、三井不動産グループの保有林、「終わらない森」創りに取り組むとともに、木造化による木材活用を推進し、自然資源を循環させ、未来につないでいく街づくりに取り組んでいくという想いを込めております。日本の林業において国産木材の使い道の拡大が課題となる中、森林資源と地域経済の持続可能な好循環の実現に寄与するため、三井不動産グループでは、当社事業における建物の木造化に挑戦し、未来につく持続可能な街づくりに貢献してまいります。



「日本橋本町三井ビルディング & forest」外観イメージ



「(仮称)日本橋本町一丁目5番街区計画」外観イメージ



「日本橋本町三井ビルディング & forest」エントランスホール完成予想イメージ

CLTを用いた耐震壁や制震壁を、床には合成デッキCLTを使用

### ■「日本橋本町三井ビルディング & forest」について

現在、日本橋にて推進中の「(仮称)日本橋本町一丁目3番計画」の名称は、三井不動産グループの新たな木造建築ブランド名称「& forest」を初適用する物件として、「日本橋本町三井ビルディング & forest」に決定しました。

本物件は日本最大・最高層の木造賃貸オフィスビルとして、三井不動産グループ保有林を含む1,100㎡超の国産木材を構造材に使用し、一般的な鉄骨造オフィスビルと比較して、躯体部分において、建築時CO<sub>2</sub>排出量約30%の削減効果を想定しています。また、内装・仕上げ材にも積極的に国産木材を使用し、木ならではのやすらぎとぬくもりを感じられる「行きたくなるオフィス」の実現を目指しています。

### ■「(仮称)日本橋本町一丁目5番街区計画」について

木材の活用によるさらなる価値創出に挑戦すべく、日本橋にて2棟目となる木造賃貸オフィスビル計画「(仮称)日本橋本町一丁目5番街区計画」を推進します。本計画においては、国産木材を積極的に活用することによる建築時のCO<sub>2</sub>排出量削減に加え、運用時における省エネ・創エネ施策を積極的に取り入れ、1棟目を超える環境性能の向上に挑戦してまいります。

### <計画概要(※)>

所在地	東京都中央区日本橋本町一丁目5番地
敷地面積	約2,000㎡
用途	事務所・店舗等
延床面積	約18,000㎡
階数・高さ	地上11階/地下1階・56m
設計者/施工予定者	株式会社山下設計/株式会社大林組
竣工時期	2028/4(予定)

CLTを耐震壁、床に使用

※今後の検討状況により、変更となる可能性があります。

### ■「MFIP 海老名 & forest」について

神奈川県海老名市にて、2025年4月に「MFIP 海老名 & forest」が着工いたしました。詳細につきましては以下よりご確認ください。

[https://www.mitsuiufudosan.co.jp/corporate/news/2025/0422\\_03/](https://www.mitsuiufudosan.co.jp/corporate/news/2025/0422_03/)



MFIP 海老名 & forest 外観 完成予想パース



木造共用部 外観イメージ

# CLTをめぐる最近の動き（2）

## ■三井不動産グループの木材活用について

三井不動産グループは、木造建築ブランド「&forest」や、三井ホームが誇る木造化技術ブランド「MOCX」、その他各施設における取り組みを含め木材活用を行っています。その他にも北海道に保有する約 5,000ha の保有林では「終わらない森創り」に取り組み、未来につづく持続可能な街づくりに貢献していきます。

<https://www.mitsufudosan.co.jp/business/development/earth/mokuzai/>

## ■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】 ・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>

・「グループマテリアリティ」 [https://www.mitsufudosan.co.jp/esg\\_csr/approach/materiality/](https://www.mitsufudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/)

・「& EARTH for Nature」 <https://www.mitsufudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/>

また、2025 年 4 月に、街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の5つを定めています。本リリースの取り組みは、「& EARTH for Nature」における重点課題の4つに貢献しています。



緑を守り育む



生態系を豊かにする



地域の想いをつなぐ



自然資源を循環させる

# CLTをめぐる最近の動き（3）

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和7年7月18日  
住宅局住宅生産課

別紙

## 令和7年度「優良木造建築物等整備推進事業」採択プロジェクトの決定

～木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクト等を採択～

2025年カーボンニュートラルの実現に向け、木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクトや炭素貯蔵効果が期待できる中大規模木造建築物の普及に資するプロジェクトを支援しています。

### ■採択結果（募集期間：4/1-4/30）

令和7年度優良木造建築物等整備推進事業の1回目の募集を行い、先導枠<sup>※1</sup>のプロジェクトとして2件、普及枠<sup>※2</sup>のプロジェクトとして2件を採択しました。

- ※1 先導枠：木造化に係る先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクト
- ※2 普及枠：炭素貯蔵効果が期待できる中大規模木造建築物の普及に資するプロジェクト
- ※3 採択プロジェクトの詳細は別紙参照
- ※4 先導枠への提案4件についての採択結果です。同時募集の普及枠への提案についての採択結果は6月18日に発表済です。

### ■参考

事業の概要や過去の採択プロジェクト一覧は以下のURLより確認できます。  
<http://www.mlit.go.jp/jutakuentiku/house/mokuzou.top.html>

＜問い合わせ先＞  
住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室  
電話：03-5253-8111（代表）



## 令和7年度「優良木造建築物等整備推進事業」（第1期）先導枠採択プロジェクト講評

プロジェクト名称			講評【評価されたポイント】
提案者			
建設地	用途		
延べ面積	階数	補助限度額	

**（仮称）西松サステナブルグリーンプロジェクト**

西松建設株式会社	学校		国産のスギ・ヒノキ構造用集成材を用いた二方向ラーメンと、鉄骨とのハイブリッド構造とした5階建て大学施設プロジェクト。
千葉県鴨川市	1,661.89 m <sup>2</sup>	地上5階	58,798 千円



構造は、二方向ラーメンでパネルゾーンを鉄骨とした接合を中心として、柱を通し柱とする部分や、鉄骨柱の部分など、各種の組み合わせを試みているハイブリッド構造である。木製梁の端部には、炭素繊維で補強して靱性を高めると共に、梁貫通穴の補強と位置づけている。また、一部に、CLT面材と高減衰ゴムダンパーによる制震壁も採用している。

防火では、木材と鋼材の着火温度差による影響の有無を、木梁とRCスラブ、配管が貫通する鉄骨仕口と木の接合部などについて、耐火実験で検証し、実用化している。

木質部材の生産では、接着剤は、原則的に工場で注入するなど、品質の確保を図っている。

また、耐久性では、カーテンウォールをダブルスキンとし、木造架構をみせながら、熱気や湿気を排出する。また、カーテンウォール以外の外壁は、押し出し成形セメント板として耐久性を高める構法としている。

工事期間中、および竣工時に見学会を計画し、また、構造・温湿度モニタリング、遮音測定などを予定している。それらはホームページや学会等で公表するとしており、設計・施工技術の普及・啓発が期待できる。

**（仮称）日本橋本町1丁目5番街区計画**

三井不動産株式会社	事務所・店舗		
東京都中央区	17,902.00 m <sup>2</sup>	地上11階 地下1階	300,000 千円



上層4層を木造化した11階建て事務所ビルのプロジェクト。

構造では、特許技術に頼らない「鉄骨造+木造」をめざし、2～7階は外壁にCLT耐震壁を配置した木造・鉄骨造混構造、8～11階は木造耐力壁構造の、立面混構造としている。上4層の木造は、住宅用の流通木材を活用して、テナント用に応用していることが特徴で、階高4.05m×スパン6mのテナント向けの架構を提案している。これは、部材の歩留まりを高める効果も期待できる。また、住宅用に開発された木造床システムを、防火性、遮音、防振、耐久性などについて改良を加え、テナントビル仕様としている。

木質部材の生産では、流通材を積極的に活用する他、北海道のトドマツをCLT床材に使用する計画としている。

内覧会・現場見学会を竣工後に計画し、また床遮音の測定などを予定している。設計・施工技術の普及・啓発が期待できる。

# CLTをめぐる最近の動き（４）

## 日本郵政グループ「サステナビリティに関する重要課題」

([https://www.japanpost.jp/sustainability/sustainability\\_management/materiality.html](https://www.japanpost.jp/sustainability/sustainability_management/materiality.html))

### 具体的な取り組み

サステナビリティに関する重要課題について、リスク及び機会に対処するための具体的な取り組みの確認と推進管理は、サステナビリティ委員会及び日本郵政グループサステナビリティ連絡会において行うこととしています。6つの領域の重要課題のそれぞれについては、以下のような取り組みを行っています。

重要課題	指標及び目標	2024年度末実績 (特に年度の記載のない場合数字は累計値)
地域生活・地域経済	<p>各施策の取組数や投資残高等を指標として進捗管理を行います。</p> <p>特に具体的な目標を設定して取組を推進している例として、以下があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共助型買物サービス「おたがいマーケット」 2024年度末までの実施目標：6地域 2025年度末までの実施目標：新たに4地域（この目標は「高齢社会への対応」にも関連）</li> <li>● GP業務関連残高(投資確約額ベース) 2025年度末時点で4,000億円程度</li> <li>● ラジオ体操実施率 2025年度末までに25%（注1）</li> <li>● サステナブル投資の推進 インパクト“K”プロジェクト認証ファンド(注2) 2025年度末までに累計15件、500億円 (この目標は本項目に限らず様々な社会課題に関連)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「おたがいマーケット」実施地域 3地域（奈良県奈良市、山形県山辺町、静岡県静岡市）(注3)</li> <li>● GP業務関連残高 1,191億円</li> <li>● ラジオ体操実施率 23.8%（2025年3月 一般消費者調査）</li> <li>● インパクト“K”プロジェクト認証ファンド 9件、279億円</li> </ul>
高齢社会への対応	<p>「地域生活・地域経済」に記載の関連する指標のほか、各サービスの利用者数等を指標として進捗管理を行います。</p> <p>特に具体的な目標を設定して取組を推進している例としては、以下があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● NISA口座数 2025年度末時点で94万口座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NISA口座数 82万口座</li> </ul>
サービスアクセス	<p>各サービスの利用可能状況等を指標として進捗管理を行います。</p> <p>特に具体的な目標を設定して取組を推進している例として、以下があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵便局アプリ登録数 2025年度末までに、500万ダウンロード</li> <li>● ゆうちょ銀行通帳アプリ登録口座数 2025年度末時点で1,600万口座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 郵便局アプリ登録数 約540万ダウンロード</li> <li>● ゆうちょ銀行通帳アプリ登録口座数 1,359万口座</li> </ul>
環境	<p>温室効果ガス排出量については、削減目標を設定してその達成状況を把握するほか、(3)④で掲げた対応方針の進捗に関する指標を設定して進捗管理を行います。また、各種環境負荷に係る資源の使用量等の中で重要なものについて指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EV四輪車両の導入台数 8,020台</li> <li>● EV二輪車両の導入台数 23,798台（注5）</li> </ul>

重要課題	指標及び目標	2024年度末実績 (特に年度の記載のない場合数字は累計値)
	<p>を設定しております。</p> <p>さらに、低環境負荷社会の実現に向けた貢献については、「地域生活・地域経済」に記載の関連する目標のほか、取組状況や投資額等を指標として進捗管理を行います。</p> <p>特に具体的な目標を設定して取組を推進している例として、以下があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● EV四輪車両の導入台数 2028年度末までの導入目標：15,000台</li> <li>● EV二輪車両の導入台数 2025年度末までの導入目標：30,800台（注4）</li> <li>● 高効率空調への更改 2024年度末までの実施目標：新たに70局 2025年度末までの実施目標：新たに82局</li> <li>● 郵便局でのLED電球使用 2024年度末までの実施目標：新たに364局 2025年度末までの実施目標：新たに430局</li> <li>● 環境配慮型郵便局の設置に係る目標 2024年度「+エコ郵便局」新たに3局開局予定 2025年度「+エコ郵便局」新たに3局開局予定</li> <li>● 「+エコ郵便局」の建設及び太陽光発電設備の設置等により、2024年度の温室効果ガス排出量の削減を、2023年度環境配慮型郵便局の設置による削減量に加え、更に0.01万t-CO<sub>2</sub>/年削減。</li> <li>● 郵便はがきのFSC®認証紙の使用</li> <li>● ESGテーマ型投融資残高(ゆうちょ銀行) 2025年度末時点で7兆円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高効率空調への更改 2024年度新たに77局更改</li> <li>● 郵便局でのLED照明使用 2024年度新たに377局</li> <li>● 環境配慮型郵便局の設置数 2024年度新たに「+エコ郵便局」3局開局(累計17局開局)</li> <li>● 「+エコ郵便局」の建設及び太陽光発電設備の設置等による、温室効果ガス削減量 0.021万t-CO<sub>2</sub>/年(2024年度)</li> <li>● 郵便はがきのFSC®認証紙の使用 現在調達しているすべての郵便はがきがFSC®認証紙を使用</li> <li>● ESGテーマ型投融資残高 6.0兆円</li> </ul>
人材・人的資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ人事方針をご覧ください。</li> </ul>	
経営基盤	<p>コンプライアンス態勢について引き続き整備を図るとともに、内部通報制度の拡充、ミスコンダクト事象の把握、サイバーセキュリティ態勢の確保、情報漏えいリスクへの対応、データガバナンス態勢の整備、お客さまの声の分析と活用による、CX(カスタマーエクスペリエンス)デザイン等を通して、お客さまから信頼され、社会課題解決への貢献を支える経営基盤の確立を図ります。</p> <p>各取組のうち、新たに導入した制度に係るものについては、その利用状況等を指標として進捗管理を行います。</p>	

# CLTをめぐる最近の動き（４）

上恩方郵便局(東京都)



蒲須坂駅郵便局(栃木県)



# CLTをめぐる最近の動き（5）

## 【2025年大阪・関西万博】 大屋根リングの概要

- 「多様でありながら、ひとつ」という本万博の理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとなる建築物。来場者が歩くことのできるスカイウォークの床（屋根材）にCLTを使用。
- 2025年2月に1周約2kmの大屋根リングが完成。

提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会



スカイウォーク

### 【概要】

- ・建築面積（水平投影面積）：約60,000㎡
- ・内径：約615m 外径：約675m
- ・幅：30m
- ・高さ：内側12m 外側20m
- ・使用木材：（国産）杉、檜（外国産）欧州赤松  
（柱材）赤松、檜 集成材  
（梁材）杉 集成材  
（屋根材）檜・杉 CLT
- ・数量：約2万7千㎡（うち屋根材 CLT約6千㎡）



提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

開幕後の様子（会場全景）

# CLTをめぐる最近の動き（6）

## 【2025年大阪・関西万博】 日本館建築の概要

- 日本館基本計画（令和4年3月策定）に基づき、「次のいのちへのリレー」という日本館コンセプトを体現するCLTを活用した円環状のパビリオンで、2025年2月完成



### 【建物概要】

場所：大阪府大阪市此花区夢洲

敷地面積：12,950㎡

総建物面積：約11,000㎡

建物：地上2階

鉄骨造+木造（CLT活用）

CLT使用量：約1,600㎡

